

# ニジェール支所便り

## 2016年6月号

【編集長】山形支所長 【編集担当】佐々木企画調査員

Tel: (227) 2073 5569 Fax: (227) 2073 2985 E-mail: ni\_oso\_rep@jica.go.jp

### 今月のトピック



- 支所からのひとこと ～EPT 岩田専門家帰任にあたっての挨拶～
- プロジェクト・専門家等の活動の進捗状況紹介
  - みんなの学校: 住民参加を通じた教育開発プロジェクト(EPT III)
- ニジェール国内の出来事 ～第10回 CEDEAO アフリカ伝統相撲トーナメント開催～

### 支所からのひとこと ～EPT 岩田専門家帰任にあたっての挨拶～

みんなの学校プロジェクトで業務調整をしておりました岩田です。この度プロジェクト終了にあたり、約2年4カ月の任期を終え帰国することとなりました。

以前はコンゴ民主共和国の保健人材開発支援プロジェクトで業務調整をしておりましたが、「みんなの学校」は、よりスケールの大きなプロジェクトで、抱えているスタッフも大変多かったため、はじめは非常に戸惑いました。そんなふうが始まったこの業務でしたが、同プロジェクトの専門家をはじめ、JICA ニジェール支所の皆様のご指導、ご支援のおかげで、未熟者ながらなんとか業務を全うでき、プロジェクトの目標達成にも貢献できたと感じています。お世話になりました皆様にはこの場をお借りしてお礼を申し上げます。また、日本人の少ないニジェール、しかも安全管理上ニアメから出てはいけないという規定により、変化のない日々の中、ニアメ在住の数少ない邦人の皆様とは食事会などを通して楽しくお付き合いさせて頂きました。ありがとうございました。

毎年ニジェールの4～5月は1年で一番暑い時期のため、停電も多く、生活するうえでも一番厳しい時期なのですが、この時期にプロジェクトの終了作業、そして帰国の準備をすること、それ自体が今から思えばこの在任期間中の最大の試練だったかもしれません。猛暑の中、ピックアップ車両にプロジェクト機材を積んで走り回ったことは、日本帰国後にはニアメの一番の思い出となることでしょう。

岩田明子



## プロジェクト・専門家等の活動の進捗状況紹介

### ■ ■ ■ みんなの学校：住民参加を通じた教育開発プロジェクト(EPT III) ■ ■ ■

<http://www.jica.go.jp/project/niger/002/index.html>

この5月20日に、4年間にわたる「みんなの学校プロジェクト」が終了を迎えることとなりました。現在のニジェールは、全国18000を超える機能する学校運営委員会と全国266コミュンに設置された機能する学校運営委員会連合が全土を網羅しており、全国規模での継続的な成果を出し続けています。毎年4億円を超える資金が学校活動のために住民から動員され、全国就学児童の4割以上を収容する2万5千を超える仮設教室(藁葺教室)が住民により毎年作られ、150時間もの校外学習が住民の支援により実施されています。それに加えて、この4年間、みんなの学校プロジェクトが取り組む挑戦の中で、ニジェールの学校運営委員会およびコミュニティは、住民参加による教育開発のさらなる可能性を示したと言えます。



みんなの学校プロジェクトは、柔軟かつ成果志向型の取り組みにより、様々な挑戦とその結果としての成果を常に生み出してきました。特にこの4年間では、地域教育開発の持続的な連携と取り組みを促進する「州教育フォーラムモデル」、住民監査(コミュニティオーデット)の導入により有効なリソース管理と運用を目指した「補助金有効活用モデル」、住民参加による児童の基礎的学力向上を目指した「質のミニマムパッケージ」、住民参加による学校運営の裨益拡大のための「機能する中学校 COGES モデル」といった斬新な取り組みを行い、確実な成果を得てきました。これらの成果は教育省、現場関係者、住民の未知の試みに対する非常に前向きで積極的な関与に支えられていますが、長年にわたり、プロジェクトが確実かつ具体的な成果を出し続けてきたことに対する信頼の賜物であったともいえます。



プロジェクトが現在まで様々な斬新な取り組みを実行することが可能となったのも、ニジェール側関係者の理解と献身的な働きと共に、ニジェール支所・本部のプロジェクト活動にかかる理解と支援が得られたからに他なりません。今後も、教育開発への住民参加および学校運営委員会の貢献や可能性を探ることが、ニジェールのみならず、他国の教育開発の可能性を広げることに繋がることから、ニジェールの特質・土壌を十二分に活用した上で、有効で柔軟的な協力が実施されることが願われます。4年にわたる皆さまからのご支援、本当にありがとうございました。

影山 晃子

**EPTのお二方、**

**本当に長いこと、お疲れ様でした！**



EPT 担当 中川企画調査員

## ニジェール国内の出来事 ～ 第10回 CEDEAO<sup>1</sup>アフリカ伝統相撲トーナメント開催～

2016年2月号のこのコーナーで紹介させて頂いた全国伝統相撲大会。5月6日～8日に、これと同じ会場ドツに西アフリカの11の国から早々たる力士が集結し、国別対抗および体重別トーナメント(TOLAC<sup>2</sup>)が開催されました。各力士は参加国によってAからCの3つのグループに分けられ、その中で勝ち残った者が準決勝、決勝へと駒を進めます。ちなみにグループAはセネガル、ベナン、コートジボアール、グループBはニジェール、ガンビア、ギニア、ブルキナファソ、そしてグループCはナイジェリア、シエラレオネ、マリ、ギニアビザウと、どれも見ごたえありそうな組み合わせばかりです。今回で10回目を数えるこの大会、恥ずかしながらこの度初めて耳にしましたが、相撲好きなら尚のこと、もっと早くにこの存在を知っておくべきだったと口惜しい気持ちになりました。



白熱した試合の様子  
(5月8日付『Le Sahel』より)

それはさて置き、金曜の午後は体重別(66kg、76kg、86kg、100kg、120kg)の個人部門勝ち抜きトーナメント、そして翌土曜日は国対抗勝ち抜きトーナメントが次々に繰り広げられました(試合数にしてなんと85試合!)。そして、最終日に個人部門と国別対抗の準決勝、決勝戦が執り行われ、連日満員の会場の熱気はこの最終日に最高潮に達しました。

さて、気になる勝敗のゆくえはというと、個人部門66kg級ではナイジェリア力士が優勝、セネガルが2位、ギニアビザウが3位に続きました。76kg級ではセネガル力士が優勝、ナイジェリアが2位、ニジェールが3位と健闘しました。86kg級でもセネガルが首位を独占し、続いて2位がガンビア、3位にマリの力士がエントリー。100kg級はまたしてもセネガルが首位、2位がナイジェリア、3位がニジェール、そして最重量級も100kgと同じくセネガル、ナイジェリア、ニジェールという順位でセネガルの個々の圧倒的な強さを見せつけられた結果となりました。個人戦に続く国別対抗戦も、これだけの粒ぞろいが国別対抗戦で顔を揃えれば、向かうところ敵なしといったところでしょうが、決勝はなんと王者セネガル対我らニジェール!開催国の意地を見せようと全力士が善戦し、会場の熱い声援もそれを後押ししたものの、あえなく5対0で敗れてしまいました。

連日厳しい暑さが続き、停電も頻発しているニジェールですが、この3日間、とりわけドツの人々はその暑さを忘れるほどに熱狂し、試合の余韻に酔いしれたことでしょう。来年の開催国がどこになるかまだ分かりませんが、この熱気を筆者自身も生で味わいたい切に思い、今回会場となったドツに思いを馳せた週末でした。

(企画調査員 佐々木夕子)

<sup>1</sup> Communauté Economique des Etats de l'Afrique de l'Ouest: 西アフリカ諸国経済共同体のフランス語名称。英語では ECOWAS (Economic Community of West African States)。

<sup>2</sup> Tournoi de Lutte Africaine de la CEDEAO.